

1 新年度予算編成の基本方針と重点施策について

- (1) 平成30年度決算を踏まえて、令和2年度予算の基本方針、重点施策、新規・拡充施策、ならびに廃止・縮小施策について財源措置と関連づけて伺う。
- (2) 令和2年度における職員体制・組織体制ならびに働き方について伺う。
- (3) 当初予算の提示にあたり、各事業の概要だけでなく、総合計画・実施計画との関わりや期待される効果等を明示することはできないか見解を伺う。
- (4) 令和2年度は、合併後15周年を迎えるが、何かこれを機に考えていることはあるのか伺う。

2 産業・雇用・観光・移住定住

- (1) 農業振興の推進
 - ① 市と農林環境専門職大学・磐田農業高校等との連携について見解を伺う。
 - ② 天竜農場の現状と今後の展開について伺う。
- (2) 人工知能、携帯電話網の5G化、モノのインターネット（IoT）、車の自動運転・EV化、生物工学など第4次産業革命と言われる技術革新に対応した産業誘致活動と既存企業への支援について見解を伺う。
- (3) 磐田市内の企業で進められている自動運転技術を活用し、通学バスやデマンドタクシーなどの市民の福祉の向上につなげるための政策について見解を伺う。
- (4) 大規模な観光資源の乏しい磐田市において、回遊性や体験型観光等を通じ、関係人口を増やしていく事業展開が必要と考えるが見解を伺う。
- (5) 自然も豊かな磐田市において、近年多くの地域で行われている田んぼアートの取り組みについて実施も含め、どのように考えているのか伺う。

3 自治・スポーツ・文化・歴史・共生

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックを機に、スポーツ合宿や全国規模の大会を誘致し、スポーツを通して交流人口を増やすことや既存の施設等を活用し民間事業者が興行収入を得られるよう工夫をするなどして、産業として自立できるきっかけづくりをすることで、文化・スポーツの観光化・産業化を図ることへの見解を伺う。
- (2) ラグビーワールドカップは想像以上の盛り上がりのうちに終了した。市内小学校やスポーツ部活などラグビーに関連づけた取り組みが市内各地で行われている。市内高校でラグビー部の新設などの機運の醸成等も含めて、このラグビーワールドカップ効果やにわかファンを活用したレガシーの構築についてどのように考えているのか見解を伺う。
- (3) 地域コミュニティが大きく変化し、多様化している現状を、市民が認識し共有することから始めていかないと、押し付けになり自立した地域づくりは進まないと危惧している。地域の変化、現状と課題、公共を担う市民の役割などについて、考え方の異なる複数の有識者などを招いた地域づくりの理解促進、特性の異なる市内複数の地域からの地域づくり報告、そしてそうした知識を共有した上での市民によるディスカッションなどを行うことで、課題とビジョンの市民間のレベル合わせを行いながら、自治基本条例の検討の必要があると考えるが見解を伺う。
- (4) 地域への権限移譲を拡大し、地域づくり協議会の自立を進める必要があると考える。そのためにも地域づくり・まちづくり等の専門的知見を持つ地域づくりの専門家が必要と考えるが見解を伺う。また自治会等の役員が単年度で変わっていく現状の中で、地域の課題を地域で解決していくためには、地域づくり協議会単位の長期計画が必要であり、市が積極的な指導を行うべきと考えるが見解を伺う。
- (5) 外国人雇用が進む中で、定住外国人が地域に根ざすために必要なことを多文化共生の視点からどのように考えているのか伺う。

4 子育て・教育

- (1) 地域が事前準備と対応を図ることができるように、学府一体校構想を明確に示しながら、小中一体校整備のロードマップの作成が必要と考えるが見解を伺う。
- (2) 学習指導要領改訂に伴うICT、プログラミング教育、英語教育や道徳教育の教科化が始まる。ますます格差拡大につながらないかと心配する声が聞こえる。県や国に問題提起ができるよう、課題の整理を行う必要があると考えるが見解を伺う。
- (3) 今後、不登校やひきこもりがますます増加するのではないかと推測される。本年10月、文部科学省から全小中学校に向けて通知された不登校に対する取り組みをまとめた「不登校児童生徒への支援の在り方について」は、学校復帰前提でなく、社会的自立へ向けて支援が行なわれるよう促すものである。今後は教育機会確保法に則り、多様な学びの場の創設と居場所づくりの推進が必要と思われるが、見解を伺う。
- (4) 入国管理法の改正により、外国にルーツを持つ児童生徒が増加傾向にある。現在の初期支援教室は、常に満員のような状態であるため、施設の整備と人の配置を進めていく必要があると考えるが見解を伺う。

5 健康・福祉

- (1) ライフステージ単位（年代毎）での課題が本年度6月の一般質問で明らかになった。この課題や現在行っている事業を見える化し、支援の必要な年代やジャンルを明確にすることにより、毎年度事業の検証や効果予測が可能になると考えるが見解を伺う。
- (2) 増加傾向にある特別に支援を要する幼児・児童・生徒の課題について伺う。また支援充実について、今後どのように考えているのか見解を伺う。
- (3) 高齢者への生活支援を積極的に進めてきているが、子育て支援、若者支援の強化などの優先度も高く、さらなる高齢者の生活支援には限界が

あると思われる。そこで高齢の入り口段階で、健康づくりなどに加え、経済・生活スキルなどの啓発支援を行い、高齢になっても公的支援に依存することなく自立した生活が可能になる仕組みづくりが必要と考えるが、見解を伺う。

6 防災・消防・安全安心

- (1) 頻発する台風やゲリラ豪雨等に備え、河川の再整備が必要と思われる。今後これをどのように進めていくのか見解を伺う。
- (2) 災害時の避難情報の内容が細分化され、またタイミングにより、わかりにくいと耳にする。特に要配慮者や外国人などに配慮する中でソフト・ハードの両面においてどのように整備し啓発を進めていくのか見解を伺う。
- (3) 現在避難所となっている小中学校等の体育館だが、仕切り等があり、垂直避難等も可能な教室等の利用も必要と考えるが、見解を伺う。
- (4) 昨年度の大規模停電時から得たものと今後どのように対策を進めていくのか見解を伺う。

7 都市基盤・環境

(1) 環境対策の推進

小中学校へのエアコン設置に伴い、電力使用量は増加することが予想される。猛暑対策などの取り組みとあわせて、ミストシャワーや緑のカーテンのさらなる普及、官民協力による節電や省エネルギーの取り組みを強化する必要があると考えるが見解を伺う。

(2) 防災基本計画について

- ① 大規模災害時等の災害廃棄物や生活ごみの処理について、業者や他市町との連携推進や置き場の基準等についてどのように考えるか見

- 解を伺う。
- ② 災害用トイレは被災状況や経過時間によって最適なものが変わってくると思われる。どのように考え、整備していくのか見解を伺う。
 - ③ また災害時の排せつ物の処理についてどのように考えているのか伺う。
 - ④ 防災トイレ計画を作成すべきと考えるが見解を伺う。

8 行財政改革

- (1) 社会情勢が激変する中、毎年の事業の指針である総合計画もきめ細やかな見直しが必要となっている。そこで、毎年度、実施計画の報告と合わせ、市民が参加して、社会の変化と政策・事業の見直しについて議論を行い、その結果を受け必要に応じて改定するなど、市民参加を進めて行くことが必要と思うが見解を伺う。
- (2) 今後、税収減少に伴う中でも、行政サービスの担い手を確保する必要がある。まず現在、官として行われている行政サービスの棚卸しを行い、優先順位をつけ、その業務の担い手を誰が行うことがふさわしいのかを、今後の財政見通しと合わせて再考する必要があると考えるが見解を伺う。
- (3) 公用車の管理効果の現状を確認した中で、公用車すべての管理を民間会社に委託し、維持管理費用等の経費削減につなげ、効率的な運用を目指すことが必要と考えるが見解を伺う。
- (4) 人材バンクの現状を伺う。ヤング草莽塾や様々なボランティアのイベントへの参加者等に人材バンクに登録してもらい、人材をプールするとともに日常的に積極的な情報提供をすることで人材育成をし、地域づくりや福祉・教育などで活躍を促していくことなどの考えがあるのか伺う。